

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和2年度学校評価 結果・学校関係者評価

学校名	唐津市立小川小中学校		
1 前年度 評価結果の概要	・項目別三者比較より、『学校教育目標の周知について』、保護者の達成率が71%と低い。保護者は育友会関係の行事や授業参観等への出席率は高く、学校への関心も高い。学校教育目標の周知のために情報発信を工夫していく必要がある。また、『家庭学習の充実』・『学校・部活・社会体育以外での運動の実践』についても、教師は指導を行っているものの、児童生徒・保護者ともに達成率が低い。どちらも、できていない一部の児童生徒いるためであるが、家庭と連携して『家庭での学習・運動 』への意欲が高まる指導の取り組みが更に必要である。 ・項目別経年比較より、『一人一人を大切にする学級経営』『挨拶や礼儀』『学力・表現力の育成』『島を愛する心・学校行事や体験活動への参加』など、児童生徒の学習・学校生活に関することについては、全ての項目の平均点で高い水準を示している。この水準を維持できるよう、進化・改善した計画的・組織的な取り組みを実践していく。		
2 学校教育目標	自立・貢献 ～ 未来へはばたく子どもたち ～		

3 本年度の重点目標	(1) 児童生徒 一人一人に応じたきめ細やかな学級経営の実践 (2) 確かな学力の育成と進路保障 (3) 児童生徒の問題発見・解決能力を育成し、自分の意見を積極的に表現できる児童生徒の育成 (4) 島を愛し、島の文化を大切にすることの育成 (5) 業務内容の見直しを通し、やりがいと魅力のある職場環境の創造
------------	---

4 重点取組内容・成果指標	中間評価	5 最終評価	
---------------	------	--------	--

(1)共通評価項目										主な担当者
重点取組			具体的取組	中間評価		最終評価		学校関係者評価		
評価項目	取組内容	成果指標 (数値目標)		進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言	
●学力の向上	○基礎的・基本的な知識・技能の確実な習得	○学力向上アクションプランの評価の平均が昨年度を上回る。	・教職員間でアクションプランを共有するとともに、校内研修等により授業研究会等を行い、取組の促進を図る。	A	・昨年度の学力向上アクションプランの総平均は3.26、今年度の2学期の平均は3.30で昨年度より上回っている。 ・授業研究会等の校内研修も計画的に進んでいる。	A	・昨年度の学力向上アクションプランの総平均は3.26、今年度の平均は3.43で昨年度より上回っており向上している。 ・学力向上に向けて、個人で設定した「共通実践のためのマイプラン」と「個人の成果指標」を職員間で共有しながら実践できた。	A	・児童生徒が少ない中で、先生方の目が行き届いていると感じている。先生方が個別に作った目標に向かって取り組み、成果が出ているのが分かった。	
	○思考力・判断力・表現力の育成	○校内研究テーマに基づき、思考力・判断力・表現力を高める授業の研究に取り組んだ教師80%以上	・同じ校内研究テーマに基づいて小中がそれぞれに研究仮説を立てて研究を進め、授業の導入の研究やワークシート等の開発、個に応じた指導に取り組む。	A	・学校評価アンケートによると100%達成している。各教科・各学年で校内研究テーマに基づいた取り組みが行われている。 ・授業研究会も活発な討議が行われている。	A	・学校評価アンケートによると、校内研究のテーマに基づく授業研究に取り組んだ教師は100%で、目標を達成した。 ・研究授業についても、各グループによる事前の指導案検討を行い、授業研究会においてKJ法を用いた全員参加の活発な討議が行われるなど充実していた。	A	・以前見たテレビ会議システムを用いた交流学习で、生き生きと自分の意見を発表する児童を見て、表現力など力がついていると感じた。	
●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○道徳アンケートや人権集会などのアンケートに、自分の思いや考えを書けた児童生徒70%以上	・人権講演会(人権集会)や道徳に関するアンケートの実施 ・道徳科の授業づくりや評価に関する校内研修等の実施	A	・アンケートに自分の思いや考えを書けた生徒とは100%であった。 ・道徳科の授業を、学級や学年を越えて相談しながら進めることができた。	A	・年間通して、アンケートに自分の思いや考えを書けた児童・生徒は100%であった。 ・アンケートの結果、教師・保護者・児童生徒ともに、児童生徒はあいさつや礼儀正しい生活ができていると答えている。	A	・地域でもよく挨拶をしてくれるので、礼儀正しい生活ができていると感じる。また、島の子は、優しい子たちが多くに常と感じている。	
	●いじめの早期発見、早期対応体制の充実	○いじめ防止等(いじめの定義、いじめの防止等のための取組、事案対処等)について組織的対応ができていると回答した教師70%以上	・いじめの認知・覚知に対する対応マニュアルを作成・見直しを行う。 ・いじめの対応についての研修・会議を年間に2回以上行う。	B	・いじめの認知・覚知に対応するマニュアルの作成をすることができなかった。職員で内容を精査しながら作成を勧めるようにする。 ・児童、生徒の生活の様子について、11月までに、2度小中合同で情報交換をした。また、必要に応じて、小中合同の連絡会を開くことができた。	A	・いじめ防止等について組織的対応ができていると回答した教師は100%であった。いじめの認知・覚知に対応するマニュアルも全職員と共有することができた。 ・1月末までに、いじめの対応に関する研修を1回、生徒指導に関する会議を2回行うことができた。	A	・人間関係のトラブルがあったようだと言ったことはある。日頃から、先生方がいじめ防止に組織的に取り組んでいると思った。	
	○地域について学ぶ授業や地域との交流活動計画し、郷土愛を育てる。	○アンケートにより、小川島の良いところや課題について、70%以上の児童生徒が記述することができる。	・島ならではの行事や島の方々との交流活動等を年間計画に組み入れ、担当生徒が記述することができる。	A	・文化発表会への島民の方々の招待、老人会を招いてのグラウンドゴルフ大会・餅つき会、総合的な学習の発表への地域の方の招待などを行い交流を深めている。 ・総合的な学習では、小中共に小川島に関連した学習を行ない、郷土愛を育てるように努めている。	A	・文化発表会への島民の方々の招待、老人会を招いてのグラウンドゴルフ大会・餅つき会、総合的な学習の発表への地域の方の招待などを行い十分交流ができた。 ・総合的な学習では、小中共に小川島に関連した学習を行ない、郷土愛を育てることができた。	A	・島民と一緒に交流することは、とてもいいことだと思う。このような取組は他にはないのではないかと。今後もこのような交流は続けてほしい。	
	●「望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成」	●「健康に食事は大切である」と考える児童生徒85%以上 ○朝食をとって登校する児童生徒85%以上	・生活状況調査、食に関する意識調査の実施 ・保健だよりの発行	B	・給食指導の中で、食の大切さを常に伝えている。健康観察では、朝食を摂ってきたかの項目があったが、今年度はコロナの流行により、検温と体調の項目で日々の調査ができなかった。	A	・食に関する意識は、年度当初と比較して、かなり向上した。各教科や担任による給食指導の効果が加わったものだと思う。また、継続しての指導により、食の自己管理能力も年齢に応じて充分に備わった。	A	・給食担当の養護教諭を中心に、食の大切さが児童生徒に伝わっていると感じた。児童生徒のリクエストメニューが、実際に給食に反映していると聞いていい取り組みだと思った。	
●健康・体づくり	○基本的生活習慣の育成	○自分に適した生活リズム(睡眠を含む)を知り、快適な生活を送ることができるような習慣を実行する児童生徒80%以上	・睡眠の大切さを知らせ、その「質」「量」を年間を通して身に付けさせる。 ・基本的な生活習慣の一つとしての快適な排便の重要性を知らせ、自らの健康を排便によって判断できるようにする。	B	・毎日の登校時や朝食などで生活リズムについての指導を継続して行い、遅刻の数を減らすことができた。 ・コロナの影響もあり、毎日の検温で自分の健康を判断させているが合わせて排便についても指導する予定である。	A	・中間報告と同様に、継続した指導を行うことができ、さらに遅刻の数を減らすことができた。また朝の態度についても改善が見られた。 ・排便についてのアンケート調査を実施し、保健体育の授業にて排便の重要性について指導することができた。	A	・排便などの指導まで。今は学校でやっているのかという意見があった。	
	●業務効率化の推進と時間外勤務時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。	・業務の優先順位設定の推奨 ・定時退勤日の設定 ・学校閉庁日の設定 ・部活動休業日の設定	B	・職員の業務効率化の意識は高くなり、中学校は時間外勤務が減っている。小学校の職員も昨年より減ったもののまだ多い。管理職は日頃より、意識して声かけを行っている。	B	・時間外勤務の上限の目安である年間360時間超が2名/13名、月間45時間超6か月以上が1名/13名であった。 ・中学校職員の超過勤務は少なかったが、小学校職員に課題が見られた。	B	・部活動の指導では、先生の負担を減らすために地元の人で指導できる人がいれば指導することも必要ではないかと。実際は、指導できる人材がいらないかもしれない。	
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	○長期休業中を中心に、年休の取得を促進	○夏季休業中に、5日3日以上の子休を取得した教職員が80%以上	・日ごろから年休が取得しやすいような職員室の雰囲気を作る。 ・長期休業中は、年休を6日3日以上取得するように声かけをする。	A	・今年度は、新型コロナウイルスの影響で夏季休業が短縮した中で、夏休が5日と増え、さらに中体連の振替もあったが、年休の取得率は平均でほぼ3日(2.96日)を達成できた。	A	・今年度は、年休取得率が夏季休暇中で平均2.96日、冬季休業中は4日、年間の年休取得率が、平均で11日となった。コロナ禍で臨時休業もあった中では、十分達成できた。	A	・先生方も計画的に休みを取られていていいと思う。今は、自分の配偶者も会社から年間10日以上は休むようにと言われている。	

(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目										主な担当者
重点取組			具体的取組	中間評価		最終評価		学校関係者評価		
評価項目	重点取組内容	成果指標 (数値目標)		進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言	
○教育の質の向上に向けたICT利活用教育の実施	○効果的なICT利活用教育の推進 ○テレビ会議システムを活用した交流の推進	・ICT機器を活用した授業やスピーチタイム等を週に15時間以上行う。 ・小学校では、テレビ会議システムを活用した他校との交流授業等を年間15回以上行う。	・電子黒板やタブレットPCを操作する機会を増やす。 ・他の離島と連携し、テレビ会議システムを活用した授業やスピーチタイムを実施する。	A	・スピーチタイムでは、小中どちらでもPPでスライドを作成し、発表することで、タブレットPCへの使用機会を確保できた。また、小中どちらでも、毎月テレビ会議システムを用いて、他校との話合いの場を設けることで、多様な価値観に触れることができた。	A	・授業の導入や、学習の振り返りで電子黒板で映像を流して学びを深めるようにした。また、中学校では月に2回、テレビ会議システムを用いて他校と意見交流や、進学についての話をし、様々な意見に触れるようにした。	A	・以前テレビ会議の授業を見て、感心した。今後も続けてほしい。児童生徒数が少ないので、いろいろな手段で交流してほしいと思う。	
○児童生徒のキャリア観の育成	○◎キャリア教育における汎用的能力である問題発見・解決能力及び表現力の向上に努め、自らの意思をしっかりと伝えられる児童生徒を育成する。	○◎自ら設定した課題について、その考察や意見等を分かりやすく、伝えることができた児童生徒70%以上。	・スピーチタイムやスピーチ交流会をはじめ、全ての教科、学校行事等を通して、夢や目標について自ら考えさせたり発表させたりする時間や場面を設ける。	A	・小中間や、外の学校と交流することによって、自分の考えを発表する機会を定期的に設けることができ、全員の児童生徒が積極的に意見を発言することができた。	A	・自分の考えを発表する機会を増やし、他者からの感想を得ることを通して、視野を広げ、進路についての考えも深めることができた。	A	・小川小中学校の目玉の1つと聞いて、今後も続けてほしい。小学校の低学年でも、発表や司会、記録ができていると聞いて、いい取組だとう。	
○特別支援教育の充実	○教員の専門性と意識の向上 ○特別支援学級(自・情)の生徒および担当教師への支援	○特別支援に関する専門性が向上した教員70%以上	・特別支援教育に関する研修会の実施 ・ケース会議の開催、情報共有 ・個別の指導計画の作成・実施・検証	A	・SCとの連携のもと、個別の指導計画の作成を行い、職員間の情報共有を定期的に行っている。今後も生徒の様子を観察しつつ、必要な情報を個別の指導計画に記載し、情報更新していく。 ・特別支援教育について、職員全員を対象に研修会が実施できた。	A	・常時、職員間での情報交換を行い、生徒の様子で気になる部分や指導した部分があれば個別の指導計画に反映させた。また、SCの来校日には確認をしてもらい、修正を行った。	A	・自分たちが児童生徒の時は、このような学級はなかった。今年度、特別支援教育に組織的に取り組んでもらい、該当生徒が欠席が0日になったと聞いて、その成果も出ていると思った。	

●…県共通 ○…学校独自 ◎…志を高める教育

5 総合評価・次年度への展望	・本年度の項目別三者比較によると、「学校教育目標の周知について」では、保護者の達成率が67%と昨年より下がった。保護者の学校行事や授業参観、育友会の役員会などへの参加率は100%であったことを考えると情報発信の機会をさらに増やすなど周知に力を注ぎたい。 ・また、「授業はわかりやすいか」に関しては、児童生徒の達成率が100%であったのに、保護者の達成率は50%であった。児童生徒の授業での達成感が保護者には届いていない現状がある。さらに、「家庭学習は定着しているか」に関しては、保護者の達成率は33%とかなり低い結果となった。教師は宿題を毎日出し、宿題が出ないことが多かった中学生に対しては、放課後に学習指導するなど極め細かい指導に取り組んだ。このような取組を継続していきたい。 ・経年比較の「一人ひとりを大切に学級経営」や「みんなの前で自分の考えや意見を発表できたか」など、児童生徒の学習や学校生活に関することに関しては、全ての項目で高い達成率だった。校内研究に全職員で取り組み、「スピーチタイム」や「気になるニュース」での他校との交流の成果が表れた。 ・来年度は、目玉でもあるスピーチタイムの充実に加え、他校との交流授業も進化させるなど、この島の学校でよかったと思ってもらえる学校づくりに組織的に取り組みたい。
----------------	--